

知られざる日本芸術写真のパイオニア

塩谷定好

Shiotani Teiko 作品展



鳥取県の裕福な廻船問屋に生まれた塩谷定好は、日本の芸術写真の代表的写真家です。

絵画的な写真表現を目指した日本の芸術写真は、海外のピクトリアリズムの影響を受けながら独自の発展を遂げ、大正から昭和初期に絶頂期を迎えました。特に、ベス単と呼ばれるカメラを使用し独特のソフトフォーカスでとらえる「ベス単のフードはずし」という技法を使った塩谷定好の美しいプリントは、写真を志す当時の若者たちに大きな影響を与えました。同郷の後輩にあたる写真家・植田正治も「塩谷さんといえば、私たちにあって、それは神様に近い存在であった」と語っています。

カメラが非常に高価だった当時、写真は「高級な趣味」であり、営業写真館の写真師以外は、誰もがアマチュア写真家でした。主な発表の場は、写真雑誌のコンテストなどに限られ、作品がまとまった形で発表されることが極めて少ない時代でした。

1982年に西ドイツ（当時）ケルン美術館での展覧会開催、フォトキナ栄誉賞受賞など、1970年代後半から欧米を中心に再評価がはじまり、2014年に塩谷定好の生家を改装した塩谷定好記念館が開館しました。本展では、同館所蔵品から精選したヴィンテージ・プリント※25点を展示いたします。

※撮影直後にプリントされ、写真家が作品とし認めたもので希少価値が非常に高い。

主催：富士フイルム株式会社

協力：塩谷定好写真記念館

後援：港区教育委員会

企画：コンタクト

表紙写真

上／無題 1927年

下／蓮 1935年

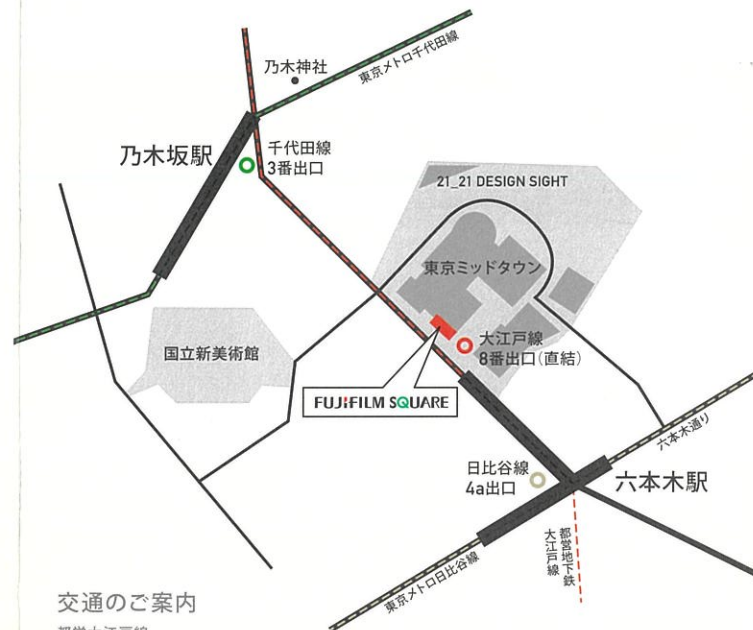
塩谷晋氏(塩谷定好の孫、塩谷定好研究家)による
ギャラリー・トーク開催

5月30日(土) 14:00～/16:00～ 入場無料

FUJIFILM SQUARE

10:00～19:00 (入館は18:50まで) 入館無料
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 (東京ミッドタウン)
TEL.03-6271-3350 (10:00～18:00) <http://fujifilmsquare.jp>

ケータイサイトはこちらからアクセス!
最新の展示会・イベント情報をご覧ください
メール会員も募集中



交通のご案内

都営大江戸線
「六本木駅」8番出口直結
東京メトロ日比谷線
「六本木駅」4a出口より徒歩5分
東京メトロ千代田線
「乃木坂駅」3番出口より徒歩5分

富士フイルム株式会社
FUJIFILM Corporation

FUJIFILM SQUARE

2015年

5月1日[金]→7月31日[金]

10:00～19:00 入館は18:50まで

会期中無休/入場無料



波止場雪景 1927年



浦富風景 1932年



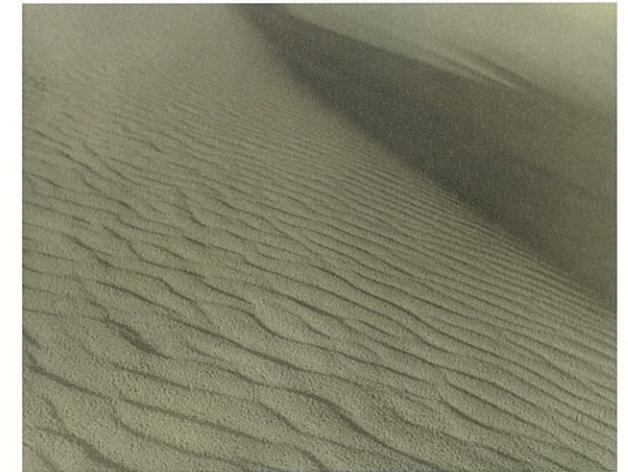
海辺小景 1924年

わたしの写真、自然をしたう、
と申しますか、自然のこころを、
私の心として写すことに
専念してきたと思うのです。

塩谷定好

塩谷定好 (しおたに ていこう)

1899年(明治32年)、鳥取県東伯郡赤碕町(現・琴浦町)に生まれる。本名・定好(さだよし)。小学5年生でカメラを手にし、1926年(昭和元年)、『アサヒカメラ』創刊号第1回月例コンテストで『漁村』が1等に入選。その後も、日本芸術写真の第一人者として多くの作品を発表。新興写真の台頭、戦中戦後の激動などにより、一時期、表舞台から姿を消すが、1975年(昭和50年)、『塩谷定好名作集』(日本写真出版)の出版により再評価の気運が高まり、1982年(昭和57年)には、西ドイツ(当時)ケルン美術館で開催された<フォトグラフィ 1922-1982>展においてフォトキナ栄誉賞を受賞するなど海外でも高い評価を得る。1983年(昭和58年)、日本写真協会功労賞を受賞。1988年、89歳で死去。国内外の美術館に作品が所蔵されている。



鳥取砂丘にて 1951年